

1. 日時 : 2017年11月10日(金)16:00-17:00
2. 出席者数 : 155名
3. 主な質疑内容 :

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。－

Q. 良好な石油精製マージンの水準が続いているが、マージン環境が悪化するリスクがあれば教えてください。

A. 今後の見通しを示すことは困難であるが、当社としては、引き続き、需要に見合った供給を行う。

Q. カセロネスの生産状況は？

A. 7-9月の生産量は8月公表時計画の9割程度であった。足元は、5月の悪天候によるトラブルからは復旧しており、採取率のバラつきを整備している状況である。

Q. 今回公表の通期見直しからは、中計の経営目標の達成に向けて順調に進捗しており、株主還元拡充の環境が整ってきているようにうかがえる。改めて株主還元の考え方についてご説明いただきたい。

A. 中計公表時に示した「本中計中における株主還元の考え方」に従い、経営目標達成の進捗によりさらなる株主還元を目指していきたい。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。